

令和2年度

## 日光市の環境



日光市

# 目 次

## 日光市の概況

1 地理的位置 .....	1
2 気候 .....	2
3 人口・世帯数 .....	3
4 土地利用(地目)状況 .....	4
5 交通 .....	5
6 産業 .....	6

## 環境の現況

I かけがえのない環境を守り育むまち .....	8
1) 自然公園等 .....	8
2) 自然景観資源・貴重な自然等 .....	12
3) 水循環・水資源 .....	14
4) 歴史文化環境 .....	19
II 環境への負荷の少ない資源循環型社会のまち .....	24
1) 年間ごみ排出量 .....	24
2) 再生利用 .....	25
3) 最終処分 .....	26
4) 環境美化 .....	27
5) ごみ処理経費 .....	27
III 快適で安心して暮らせるまち .....	28
1) 大気環境 .....	28
2) 水環境(水質) .....	30
3) 水環境(生活排水処理の状況) .....	34
4) 土壌環境・地下水環境・地盤環境の現況 .....	35
5) その他生活環境 .....	36
6) 水を守る活動等 .....	37
IV 地球環境保全に貢献する環境にやさしいまち .....	38
1) 地球環境問題 .....	38
2) 温室効果ガス排出量 .....	40
3) 自然エネルギー等再生可能エネルギーの有効利用...	41
V 環境資源を活かし多彩な環境交流が育まれるまち ...	42
1) 環境資源を活かした環境交流 .....	42
2) 環境保全活動 .....	43

※所轄官庁の調査結果数値の公表時期により、最新数値が令和2年度ではないものも含まれますのでご了承ください。

# 日光市の概況

## 1 地理的位置

日光市は、栃木県の北西部に位置し、群馬県、福島県に接し、市役所は東京から約120kmの距離にあります。南は宇都宮市、鹿沼市に、西は群馬県みどり市、片品村、沼田市に、北は福島県檜枝岐村、南会津町に、東は那須塩原市、塩谷町に接しています。

市の総面積は約1,450km<sup>2</sup>で、県土のおよそ4分の1を占めます。森林面積は市域面積の約9割を占め、豊かな自然環境の源となっています。

北部と南西部に急峻な山岳が連なる山地が広がり、南部には、大谷川が運んだ土砂により今市扇状地が形成されています。標高は、白根山の2,578mから行川沿い低地の200mまで、その差は約2,380mになっています。



地域	面積		庁舎が位置する標高	
	(km <sup>2</sup> )	割合(%)		標高(m)
日光市	1,449.83	100	本庁	379
今市地域	243.54	16.8		
日光地域	320.90	22.1	日光行政センター	560
藤原地域	272.27	18.8	藤原行政センター	387
足尾地域	185.79	12.8	足尾行政センター	617
栗山地域	427.37	29.5	栗山行政センター	706

出典：令和2年度版日光市統計書

※ 日光市面積は平成26年度国土交通省国土地理院面積調。各地域の面積は、平成25年度までの面積調における従来の測定方法に基づく数値のため、合計が日光市の面積と一致しない。

# 日光市の概況

## 2 気候

今市扇状地の気候は、準高冷地・準内陸性となり、夏涼しく、冬は寒いものの冷え込みは弱くなっています。奥日光地区、藤原・栗山地域の山間部では、さらに夏は涼しく、冬の寒さは厳しくなります。

2016(平成28)～2020(令和2)年の今市市街地の年平均気温は、12.4℃、年間平均降水量は1,888.9mmで、奥日光の年平均気温は7.8℃、年降水量は2,068.0mmと、平均気温で4.6℃、年降水量で179.1mmの違いがあります。

1年を通して各地点とも寒暖の差が大きく、夏から初秋にかけての霧の発生を著しいものに行っているほか、四季折々の変化に富んだ美しい自然景観を形成しています。あわせて、標高差や起伏の大きさが、四季を通じて変化に富んだ観光や多様なスポーツ・レクリエーションを可能にしています。

年	平均気温(℃)					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	(平均)
今市	12.4	11.7	12.8	12.5	12.5	12.4
奥日光	8.0	6.9	8.1	7.8	8.1	7.8
五十里	10.7	9.7	10.7	10.7	10.9	10.5
土呂部	8.6	8.8	8.8	8.7	8.9	8.8
足尾	..	..	..	..	..	..

年	最高気温の平均(℃)					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	(平均)
今市	17.5	16.8	18.1	17.7	17.7	17.6
奥日光	12.3	11.1	12.5	12.0	12.2	12.0
五十里	15.9	14.7	16.0	15.5	15.7	15.6
土呂部	14.7	14.7	15.1	14.8	15.0	14.9
足尾	..	..	..	..	..	..

年	最低気温の平均(℃)					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	(平均)
今市	8.1	7.3	8.3	8.1	8.4	8.0
奥日光	3.9	2.9	3.9	3.9	4.2	3.8
五十里	6.7	5.8	6.4	6.9	7.3	6.6
土呂部	3.4	3.4	3.3	3.5	4.0	3.5
足尾	..	..	..	..	..	..

年	日照時間(時間)					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	(平均)
今市	1,781.6	1,802.5	1,953.1	1,849.3	1,756.4	1,828.6
奥日光	1,832.0	1,787.7	1,928.1	1,774.5	1,733.8	1,811.2
五十里	1,576.6	1,574.1	1,731.5	1,628.9	1,528.8	1,608.0
土呂部	1,672.6	1,672.6	1,832.9	1,717.2	1,587.8	1,696.6
足尾	..	..	..	..	..	..

年	降水量(mm)					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	(平均)
今市	1,938.5	1,664.0	1,679.0	2,408.5	1,754.5	1,888.9
奥日光	1,886.0	1,886.0	2,131.0	2,576.0	1,861.0	2,068.0
五十里	1,378.0	1,385.0	1,541.5	1,810.5	1,432.0	1,509.4
土呂部	1,170.5	1,170.5	1,656.5	1,877.0	1,476.5	1,470.2
足尾	1,737.5	1,608.0	1,720.8	2,218.0	1,497.5	1,756.4

年	積雪深(cm)					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	(平均)
今市	..	..	..	..	..	..
奥日光	44	44	30	27	24	33.8
五十里	..	..	..	..	..	..
土呂部	54	71	63	39	29	51.2
足尾	..	..	..	..	..	..

出典: 令和2年度版日光市統計書

※ 足尾分署移転のため、平成25年8月以降の記録はなし

# 日光市の概況

## 3 人口・世帯数

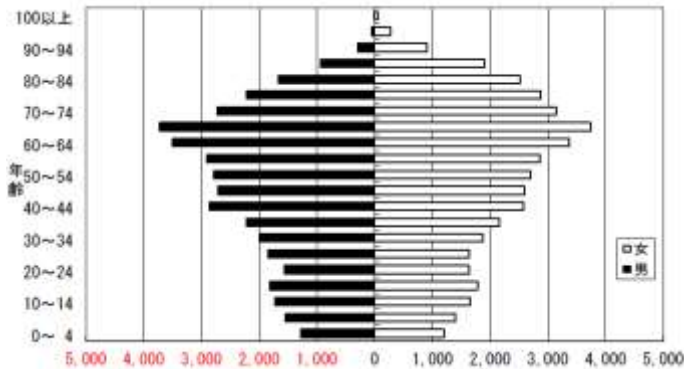
平成27年国勢調査人口は83,386人で、県内第8位の人口規模ですが、昭和30年112,940人をピークに減少しています。昭和50年から平成7年にかけて増加しましたが、平成7年の99,988人をピークに減少傾向にあります。

一般世帯数も、平成21年までは増加傾向にありましたが、その後やや減少し、横ばい傾向にあります。また、1世帯当たりの人員数は、昭和30年代頃まではほぼ5.0人/世帯でしたが、その後減少を続け、令和2年では2.4人/世帯と、核家族化の進行と高齢者のみの世帯が増加していることが伺えます。

### 【年齢構成】

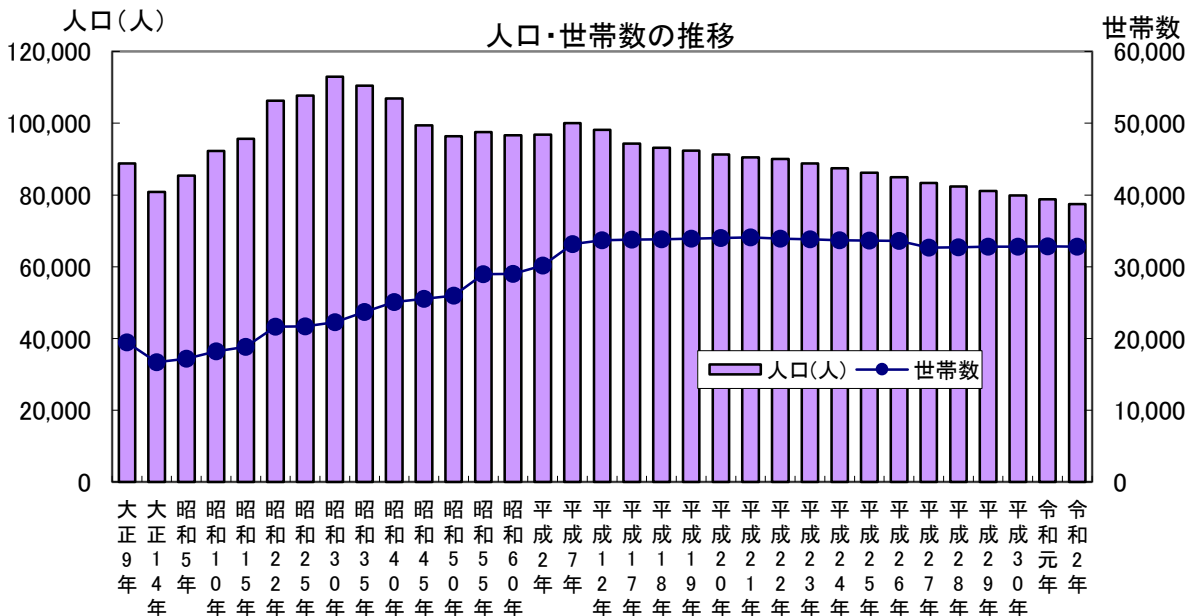
平成27年国勢調査による年齢構成を見ると、0～14歳の年少人口比が10.6%（県平均12.8%）、15～64歳の生産年齢人口比が56.9%（県平均61.3%）、65歳以上の老人人口が32.5%（県平均25.9%）と、県全体の平均と比較して高齢人口が高く、年少人口、生産年齢人口の割合が低くなっています。また、60歳代が17.2%と最も多く、少子高齢化が進んでいます。

平成27年国勢調査人口ピラミッド



年	(西暦)年	人口(人)	世帯数
大正9年	1920	88,826	19,463
大正14年	1925	80,882	16,702
昭和5年	1930	85,429	17,179
昭和10年	1935	92,269	18,237
昭和15年	1940	95,636	18,840
昭和22年	1947	106,294	21,672
昭和25年	1950	107,674	21,715
昭和30年	1955	112,940	22,262
昭和35年	1960	110,468	23,696
昭和40年	1965	106,916	25,097
昭和45年	1970	99,415	25,513
昭和50年	1975	96,404	25,975
昭和55年	1980	97,515	28,956
昭和60年	1985	96,634	28,999
平成2年	1990	96,859	30,186
平成7年	1995	99,988	33,177
平成12年	2000	98,143	33,684
平成17年	2005	94,291	33,790
平成18年	2006	93,158	33,835
平成19年	2007	92,354	33,931
平成20年	2008	91,285	33,991
平成21年	2009	90,455	34,110
平成22年	2010	90,066	33,926
平成23年	2011	88,757	33,823
平成24年	2012	87,426	33,707
平成25年	2013	86,166	33,661
平成26年	2014	84,952	33,595
平成27年	2015	83,386	32,658
平成28年	2016	82,327	32,693
平成29年	2017	81,100	32,782
平成30年	2018	79,896	32,790
令和元年	2019	78,768	32,831
令和2年	2020	77,475	32,821

出典：令和2年度版 日光市統計書

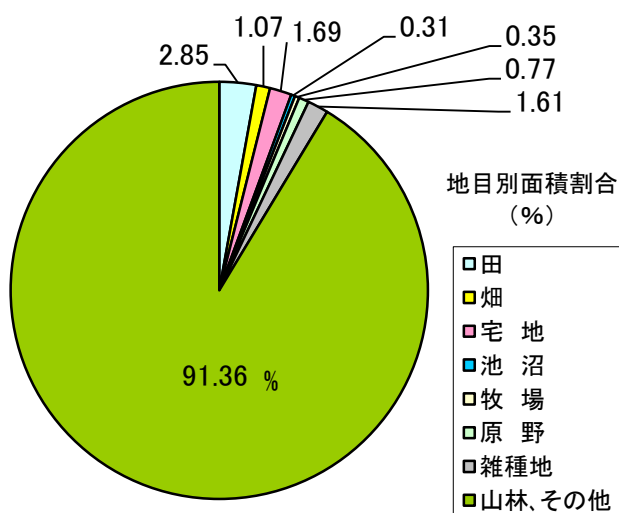


# 日光市の概況

## 4 土地利用（地目）状況

土地の利用状況を地目から見ると、総面積のうち、未利用なその他と山林の割合が極めて大きく、全体の9割以上を占めていることが特徴です。また、日光市の面積は県土の約4分の1、林野面積は県全体の3分の1以上を有しています。

現況森林のうち国有林が約64%、公有林（独立行政法人等を含む）が約10%、民有林が約26%と、7割以上が公的機関の所有形態となっているのが特徴と言えます。



【地目別面積】（各年1月1日現在）

	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	面積(km <sup>2</sup> )	割合(%)	面積(km <sup>2</sup> )	割合(%)	面積(km <sup>2</sup> )	割合(%)	面積(km <sup>2</sup> )	割合(%)
田	41.56	2.87	41.37	2.85	41.31	2.85	41.25	2.85
畑	15.66	1.08	15.63	1.08	15.57	1.07	15.56	1.07
宅地	24.33	1.68	24.37	1.68	24.40	1.68	24.48	1.69
池沼	4.48	0.31	4.48	0.31	4.48	0.31	4.48	0.31
牧場	5.02	0.35	5.02	0.35	5.02	0.35	5.02	0.35
原野	11.54	0.80	11.22	0.77	11.22	0.77	11.21	0.77
雑種地	23.24	1.60	23.22	1.60	23.35	1.61	23.33	1.61
山林, その他	1,324.00	91.32	1,324.52	91.39	1,324.48	91.35	1,324.50	91.36
総面積	1,449.83	100.00	1,449.83	100.00	1,449.83	100.00	1,449.83	100.00

出典：令和2年度版 日光市統計書

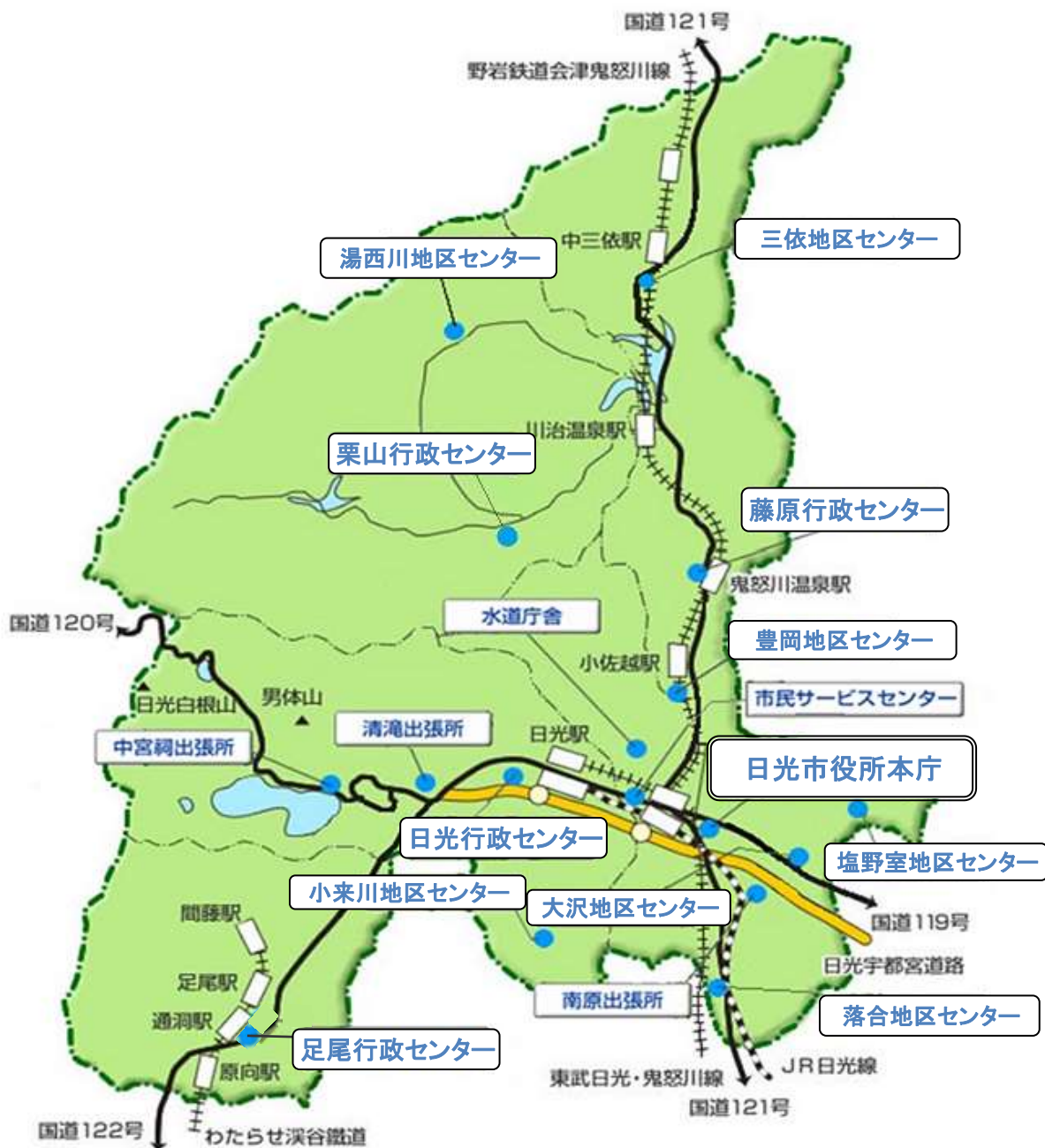
# 日光市の概況

## 5 交通

基幹道路は、東北自動車道と結ぶ日光宇都宮道路、それと平行して走る国道119号をはじめ、国道121号が市域を南北に縦貫しています。国道120号が奥日光、122号が足尾を通り、群馬県内と連絡しています。

公共交通としては、鉄道とバス路線があり、市民の生活や観光等に利用されています。鉄道は、JR日光線、東武鉄道日光・鬼怒川線、野岩鉄道会津鬼怒川線、わたらせ渓谷鐵道わたらせ渓谷線の5線があり、首都圏をはじめ、県内及び隣接する群馬・福島県内と連絡しています。

バス路線は、市が運営している路線バスが12路線及びデマンドバスが3地区、他市町の公営バス運営によるものが3市町3路線、民間事業者によるものが3社19路線39系統あり、市民の生活や観光客の市内観光等にとって重要な役割を果たしています。



# 日光市の概況

## 6 産業

産業別就業人口は、平成7年まで増加傾向で推移していましたが、それ以降は総人口の推移と同様に減少に転じ、平成27年国勢調査では41,512人となっています。

産業別就業構成は、栃木県平均と比べると、第一次、第二次産業の割合が低く、第三次産業の割合が高くなっています。特に、日光、藤原、栗山地域では70%を超えています。

### 産業別就業人口(平成27年)

	第1次産業		第2次産業		第3次産業		合計	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
栃木県	53,177	5.7	296,120	31.9	578,864	62.4	928,161	100.0
日光市	2,169	5.3	11,275	27.2	27,936	67.5	41,380	100.0
今市地域	1,828	6.3	8,895	30.7	18,227	63.0	28,950	100.0
日光地域	153	2.4	1,369	21.2	4,929	76.4	6,451	100.0
藤原地域	133	3.0	679	15.3	3,628	81.7	4,440	100.0
足尾地域	18	2.2	255	30.5	563	67.3	836	100.0
栗山地域	37	5.2	83	11.7	589	83.1	709	100.0

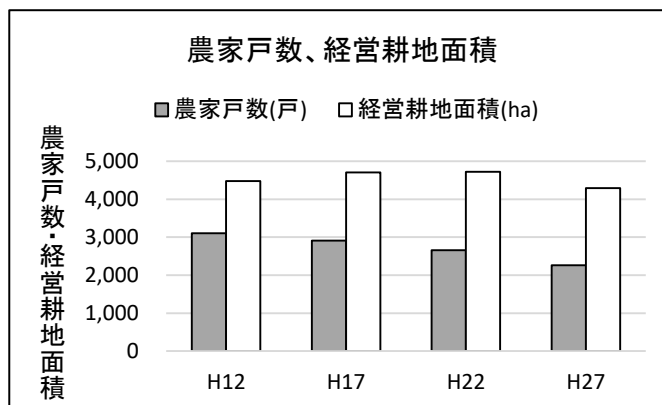
出典:平成27年国勢調査就業状態等基本集計結果〔栃木県〕

### 第一次産業

農業は、水田稲作や畜産、花き栽培が主で、今市地域をはじめ日光、藤原地域の平地で行なわれています。また、藤原地域の一部では高冷地野菜の栽培も盛んです。

農家戸数及び経営耕地面積は減少傾向が続いています。

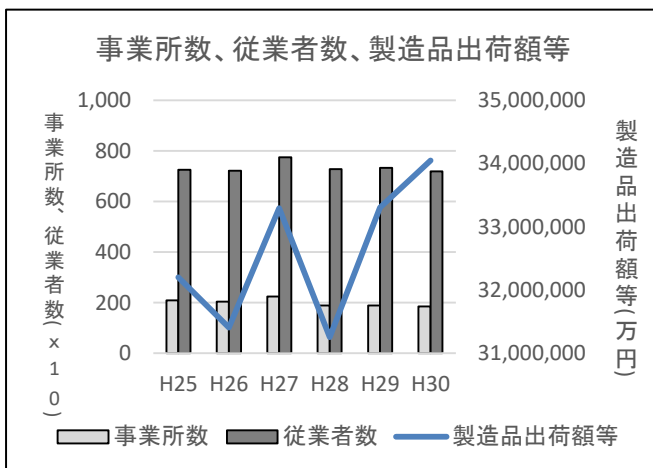
林業(民有林)では多くが小規模経営で、高齢化の進展、後継者不足、森林の管理不足などの問題に直面しています。



出典:農林業センサス

水産業は、鬼怒川等の多くの河川や中禅寺湖などの湖沼に恵まれ、内水面漁業に有利な条件を有していますが、漁業従事者の減少などが課題となっています。

### 第二次産業



鉱工業は、中小規模の事業所が大部分を占めています。事業所数は、平成30年では食料品製造業が最も多く、次いで金属製品製造業となっています。従業員数は、食料品製造業、非鉄金属製造業の順で、両業種で従業者数の約4割を占めています。製造品出荷額の割合は、化学工業、非鉄金属製造業の順で、両業種で製造品出荷額のほぼ6割強を占めています。

出典:令和2年度版日光市統計書

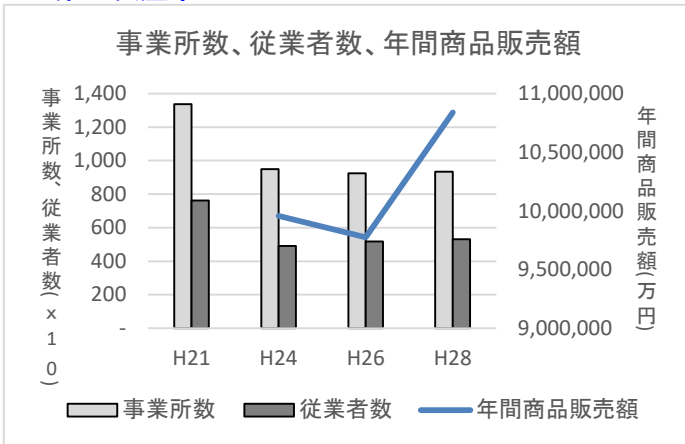
平成27年は、平成28年経済センサス・活動調査の結果です。

近年では、大谷川のおいしい水や豊かな地下水に代表される、豊富で高品質の水資源を背景として、平成8年に分譲を開始した大日光(轟)工業団地に、食品関連会社数社が進出しています。



# 日光市の概況

## 第三次産業



平成20年のリーマンショックや東日本大震災等の影響により事業所数、従業者数ともに大幅減少したのちほぼ横ばいの傾向があります。小売業のうち飲食料品に就業する者の割合は40%強と高く、主に観光産業を中心とした就業構造となっています。

年間商品販売額は、平成19年の商業統計によりますと、12,063,000万円でした。平成21年の調査はなかったものの、事業所数の減少に伴いやや減少傾向にあるものと考えられます。

出典：令和2年度版日光市統計書

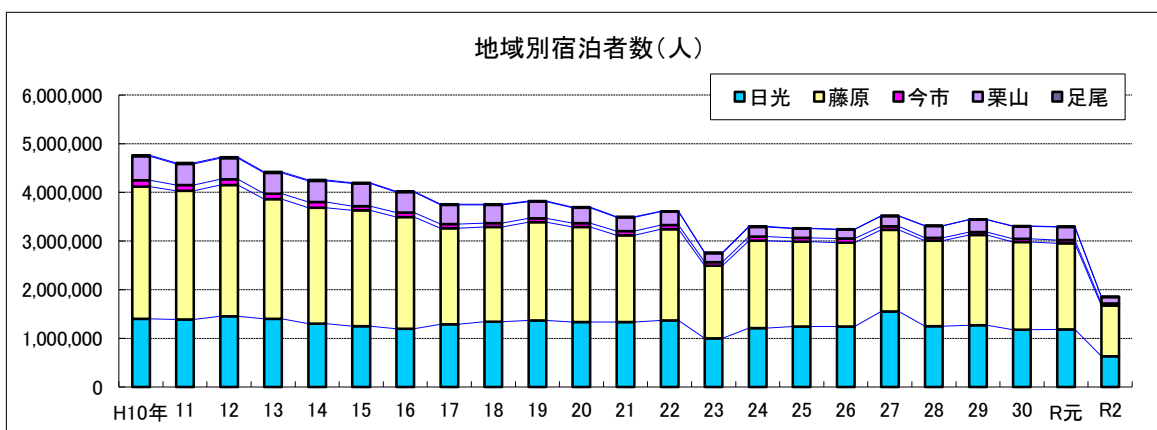
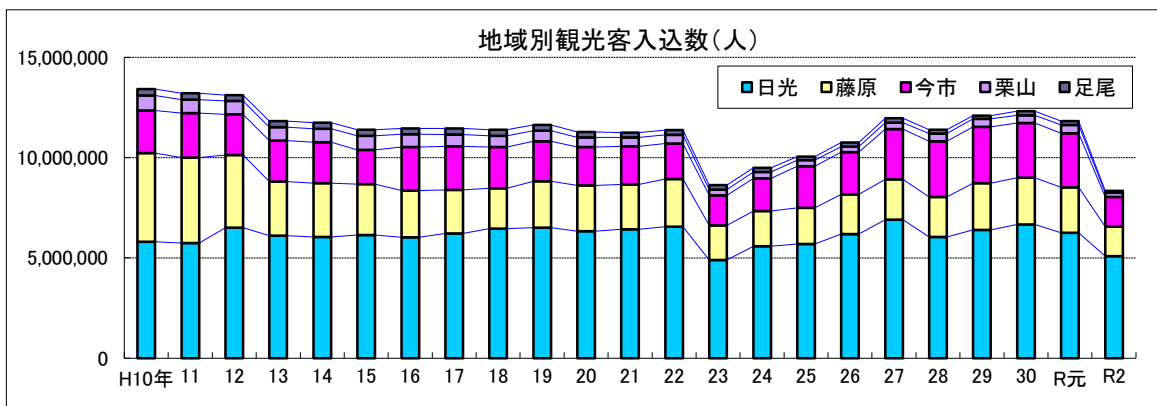
### 【商業】

商業は、今市地域が中心で、主要幹線道路沿いへの大型店・中型店の出店により盛況な面もありますが、隣接する宇都宮市などへ消費が流出する傾向もみられます。また、商店数は昭和57年以降減少傾向が見られます。

### 【観光・物産】

本市は、多様な観光資源に恵まれ、観光が重要な産業となっています。

平成4年に1,700万人を超えていた観光客入込数は、平成13年以降は1,150万人程度で横ばいを続けていましたが、平成23年には震災による原発事故の風評被害の影響を受けて1,000万人を割り込み、前年比約75%と大きく落ち込みました。平成24年以降は持ち直し、平成29年には1,200万人を超えました。令和2年に再び大きく落ち込んでいるのは、新型コロナウイルスの流行によるものと思われまます。



出典：いずれも 令和2年度版 日光市統計書